

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 119

学校名・団体名	小林市立三松中学校
HPアドレス	https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4407/htdocs/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	伝統芸能（岩戸神楽）の継承と日本の伝統芸能の理解
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>三松地区に伝わる伝統文化である岩戸神楽を理解し、岩戸神楽保存会の協力を得ながら73名全員がそれぞれの役割を担い、岩戸神楽を継承し、完成させ文化発表会や宮崎県音楽研究大会等で広く地域に披露する。</p> <p>また、我が国の長い歴史の中で、人々に受け継がれてきた他の伝統文化である津軽三味線や能楽をはじめ、未来に受け継いでいきたい現在の文化にも触れ、次の3つのことをねらいとして取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none">① 地域社会の文化理解と体験の重視② 伝統・文化の理解と文化の発信・交流の重視③ 表現や創作の重視	

<活動・研究報告>

◇岩戸神楽の伝承と伝達

時 期 : 平成29年8月～平成29年10月

内 容 : 対象者 2年生(73名)

三松地区に伝わる伝統文化である「岩戸神楽」について、岩戸神楽保存会の協力を得ながら神楽の文化や歴史について学習し、基本的なことについては理解を深めることができた。

また、神楽保存会の協力で生徒全員が神様、笛、太鼓、資料作成の役割を担い、岩戸神楽を完成させ、10月の文化発表会と宮崎県音楽研究大会のアトラクションにおいて、保護者や地域、宮崎県内の音楽関係者に披露することもできた。

11月には、三松小学校4年生との交流で、中学生がこれまで学習してきた岩戸神楽についての文化や歴史を伝達したり、一緒に舞ったりするなどの体験学習を行うこともできた。



◇村上三絃道（津軽三味線）によるスクールコンサートの開催

時 期 : 平成29年11月28日(火)

内 容 : 対象者 全校生徒(224名)

青森県から宮崎県に津軽三味線を伝え45周年を迎える村上三絃道2代目家元(村上侑哲)をはじめとする4名のスタッフを講師に迎え、津軽三味線の歴史や楽器の音色、宮崎で伝統を繋ぎ、守っていくことの厳しさや誇りについて学習することができた。



◇寺田蝶美先生による全校国語（筑前琵琶で語る「平家物語」の世界）

期 日 : 平成30年1月19日(金)

内 容 : 対象者 全校生徒(224名)

国語科では、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において、小学校から古典作品を取り上げて親しむこと、中学校では言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成することが求められている。そこで、中学校2年で学習する「平家物語」から、①琵琶という楽器について知ること、②「祇園精舎」を通じて語りと呼ばれる歌の特色を知り体感する(歌ってみる)こと、③「那須与一」の場面を想像しながら聴く、場面を理解すること、音の響き楽しむこと、④「壇ノ浦」の演奏を聴いて楽器琵琶がどのように効果的に使われているかを考えることなど、教科書だけでは感じる事ができない学習を体感することができた。



◇宝生流能楽師による全校音楽「羽衣」

期 日 : 平成30年2月20日(火)

内 容 : 対象者 全校生徒(224名)

音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」を受け、今回は、宝生流シテ方楽師の佐野登さんの指導により、音楽文化についての理解を深めること(我が国の伝統音楽の理解)、特に、日本の伝統芸能である「能」の文化と歴史について知ることができ、能の所作や小道具などについても学ぶことができた。また、中学音楽教科書にある「羽衣」の舞を実際に鑑賞することもでき、最小限の動きや音で無限を表現する本物の能に触れることができた。



《 成 果 》

- 1 郷土に伝わる伝統芸能「岩戸神楽」を学習し、理解することで郷土に対する愛着や、長い間、郷土に口伝で大切に守られてきた「岩戸神楽」に携わってきた大人たちを誇りに思う気持ちや態度が育まれるとともに、自分たちも将来、地域の一員として貢献しようとする意欲の向上が図られた。
- 2 岩戸神楽を学び、併せて能楽や津軽三味線、筑前琵琶といった多様な我が国を代表する伝統芸能に触れることができたことで、国際社会に生きる日本人としての自覚や誇りをもち、多様な文化を尊重できる態度や資質を育むことができた。
- 3 身近な地域や自国の伝統、他地域や他国の伝統・文化を理解し誇りに思い、自国の伝統や文化を世界に発信したり、互いに文化交流できる資質や能力を基盤を築くことができた。
- 4 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする資質や能力、人と積極的に関わろうとする人間関係能力を育む機会となった。
- 5 自己の生き方(在り方)を考えるよい機会となった。